

# 「LGBT の患者対応についての看護部長アンケート」結果

◆ 本件に関する問合せ先 ◆

石川県立看護大学 講師 さんべみちこ 三部倫子


✉ m\_sambe@ishikawa.nu-ac.jp ☎ 076-281-8300 (代表)


国内医療機関における性の多様性を踏まえた体制づくりを知るため、看護部長を対象としたアンケート調査を行いました。ご協力くださった方々への感謝とともに、本資料ではその結果の一部をお伝えします。今後、詳細な報告書を作成する予定です(2019年秋ごろ)。なお、LGBTの患者さんを担当したことのある看護師さま対象のインタビューに、ご協力の意思を示してくださった方にも、順次ご連絡を差し上げます。


この調査は、平成 29～30 年度科学研究費補助金(研究活動スタート支援)「医療機関における家族——性的指向と性自認を軸とする患者・看護師の相互行為」(17H06999)を受けて実施しました(代表:三部倫子(石川県立看護大学)、本結果への研究協力者:影山葉子(浜松医科大学)、筒井晴香(東京大学)、平山亮(東京都健康長寿医療センター研究所))。調査にあたっては、石川県立看護大学倫理委員会からの承認(2019年1月7日看大第658号)を得ています。

## 調査概要

913

 調査対象: 東京都、石川県、静岡県内の「病院」(入院病床 20 以上)勤務の看護部長 914人  
「医療機能情報」より病院リスト取得

 調査期間: 2019年1月24日～2019年2月28日(督促状2回、4月到着分まで集計)

 調査方法: 郵送配布・郵送回収、無記名・自記式

 有効回答数: 252人、有効回収率 27.6%

## この調査でわかったこと

- ✓ 多くの病院で同性カップルが「家族等」として扱われていないことがわかりました。現場の裁量によって、手術の代諾、看取りの立ち会い、ICUなどでの面会が親族に制限されていました。患者の手術の代諾ができる人を「親族のみ」とする回答は回答者の4割をこえ、看取りに立ち会える人は「親族のみ」とする回答(2割)と大きな差がありました。
- ✓ 性別違和のある患者(トランスジェンダー)が受診しやすい環境にはなっていないことがわかりました。診察時の呼び出し時の配慮がなされていなかったり、性自認にあった通称名の使用が難しかったり、保険証の性別表記の工夫の仕方が知られていませんでした。
- ✓ ほとんどの病院で、性の多様性やLGBTの理解を深めるための研修がなされていませんでした。他方で、研修を求める声が多数ありました。

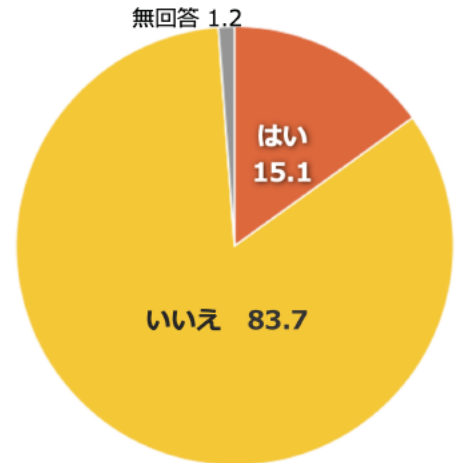


# 1 家族等の扱い

## 各病院で「家族」は明確に定義されていない (図1)

「患者さんの家族の範囲を文章で明文化」しているかどうか聞いたところ、「いいえ」を選んだ回答が8割を超えました。つまり、病院として見解が統一されないなかで、職員が自らの裁量で判断し、行動していることがうかがえます。

図1 家族定義の有無 n=252. 数(%)

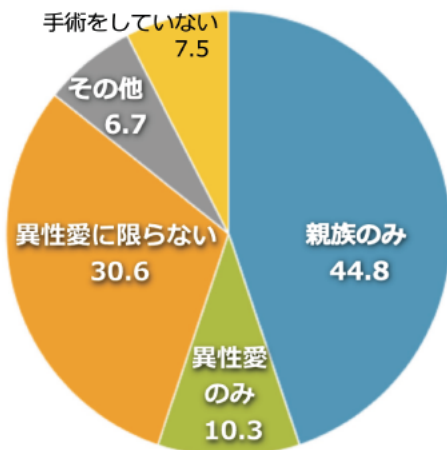


## 手術の同意、看取り、面会は親族優先 (図2、3、4)

成人した患者に判断能力がない場合の手術の同意を誰からとっているのか、看取りの場面に誰が立ち会えるのか、ICUなど面会制限のある病棟で面会が可能な人の範囲を複数から選んでもらいました。本結果では、それらの回答を以下のように再分類した図を示します。

- 「親族のみ」: 「1 配偶者」、「2 親」、「3 子」、「4 上記以外の親族」のどれかを回答
- 「異性愛のみ」: 上記に加えて「5 配偶者に相当する内縁の異性パートナー」にも回答
- 「異性愛に限らない」: 上記2つに加えて「6 配偶者に相当する内縁の同性パートナー」にも回答

図2 手術の同意 n=252. 数(%)



※ 図2 手術をしていないと回答した病院は「手術をしていない」にまとめた

図3 看取りの立会い n=252. 数(%)

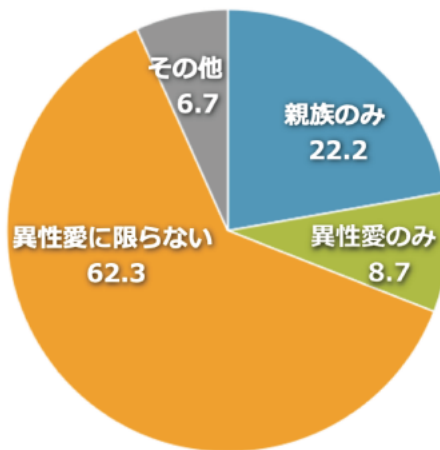
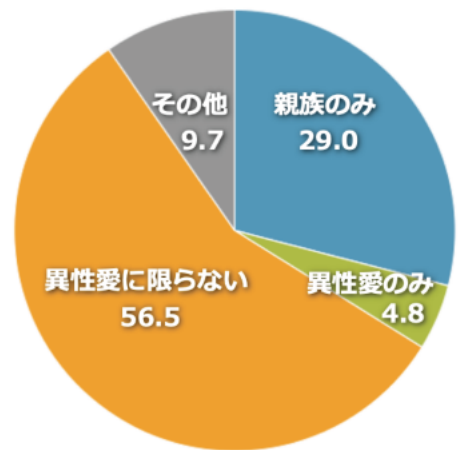


図4 ICU面会制限 n=62. 数(%)



※ 図4 「その他」にはどれにも回答がないものを含む



個人情報保護法では、本人の同意なしに他者に個人の情報を開示することはできないとされています。つまり、**本人の意識がない場合、親族であっても代諾ができると法律上決められているわけではありません。**しかし、**医療現場では親族であれば代諾が可能で、それ以外の同性パートナーなどは難しいと判断される傾向がある**ことがわかります。手術等の医療行為への同意では親族のみが44.8%で、看取りの22.2%と比べて2倍となっており、患者の命に関わることで判断が迷われるときは親族に決定を委ねていることがうかがえます。



## 2 性別違和のある患者（トランスジェンダー）への対応

生まれたときに与えられた性別と、自分がしっかりとくる性別が異なる人がいます。そうした人たちの生きづらさの大半は、周囲から本人の望む性別で扱われることで解消するといわれています。時にトランスジェンダーと呼ばれるこうした人びとは、ホルモン療法による身体的特徴の変化や服装などにより、外見の性別と戸籍などの公的な書類上の性別が異なることがあります。医療機関においては患者の性自認というプライバシーに配慮した対応が求められています。

### 呼出時の配慮 (図 5)

外来受診の患者をどう呼び出すのか、複数の選択肢から回答してもらいました（「1.姓だけで呼び出す」「2.フルネームで呼び出す」「3.個人名を出さず番号で呼び出す」「4 その他（自由記述欄）」）。ここでは回答を以下のように再分類した結果を示します。

- 「配慮なし」：「2 フルネームで呼び出す」だけを回答
- 「配慮あり」：上記以外も回答している
- 「その他」：「4 その他」だけを回答

### 通称名の使用 (図 6)

病院では患者が戸籍や住民票上の名前ではない通称名を使用できるかどうかを、事例「戸籍名は『佐藤花子』だが、実生活では『佐藤太郎』の通称名で男性として生活している患者さんが、病院で『佐藤太郎さん』として扱ってもらえる」をあげて聞きました。

### 保険証の性別表記の工夫 (図 7)

厚生労働省は本人の申し出により被保険者証の表面の性別記載を変更し、裏面の余白等に「戸籍上の性別」を書くことが可能としています（保告発 0921 第 1 号、2012 年）。~~そこで、「患者さんの性自認を表面に、裏面の備考欄等に戸籍等の性別を表記できるのをご存じですか」と聞きました。~~

外来の待合室には不特定多数の人が集まっています。改名をしていない人にとって、**人前で外見と異なる名前や本人の性自認とは異なる名前と呼ばれることは苦痛を伴い、受診を控えることにつながります。**婚姻をしていないこと、性別適合手術を受けることや未成年の子がいないこと、成人していることなど厳密な要件があるため、戸籍上の性別を変えるのは容易ではありません。そのため、**医師の診断があるなど一定の条件のもとで保険証の性別表記に工夫をこらすことができますが、残念ながらほとんど知られていません。**



図5 呼出時の配慮 n=252. 数(%)

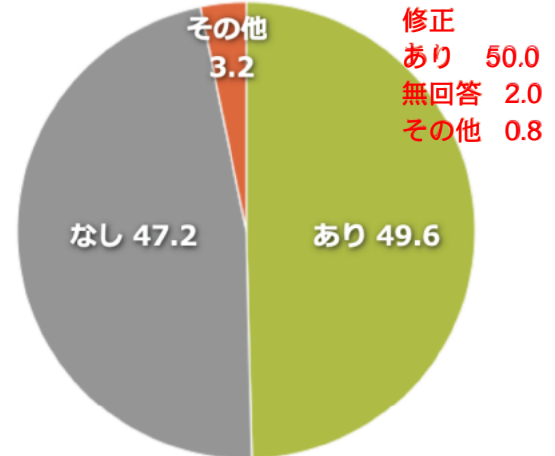


図6 通称名使用の可否 n=252. 数(%)

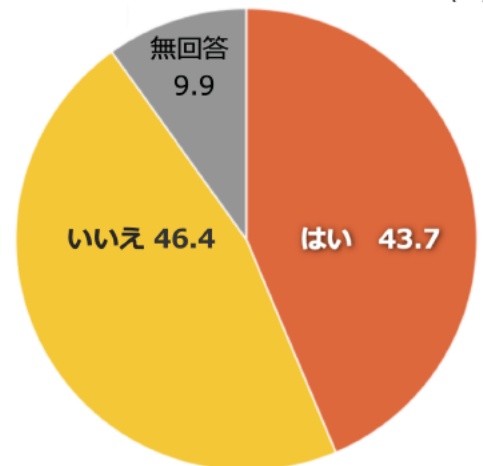
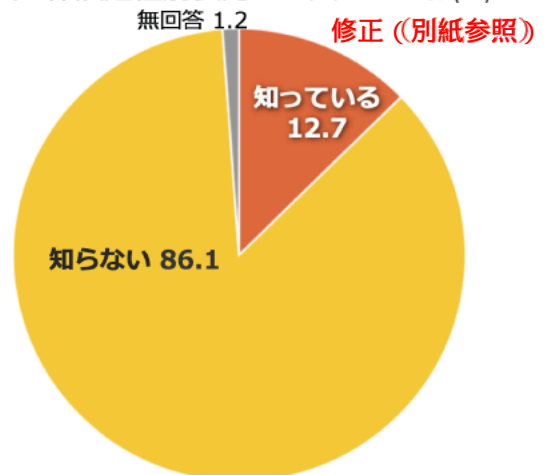


図7 保険証性別表記の工夫 n=252. 数(%)



### 3 研修

管理職である看護部長に、研修についてうかがいました。

#### 看護研修は行われていないが高い要望 (図 8、9)

LGBT や性の多様性について知識や理解を得るための看護研修をしたことがあるか聞いたところ、していない病院が9割を越えました(図8)。

図8 看護研修をしたことがあるか  
n=252. 数(%)

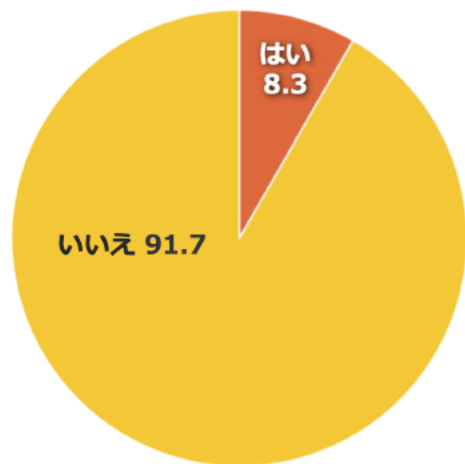
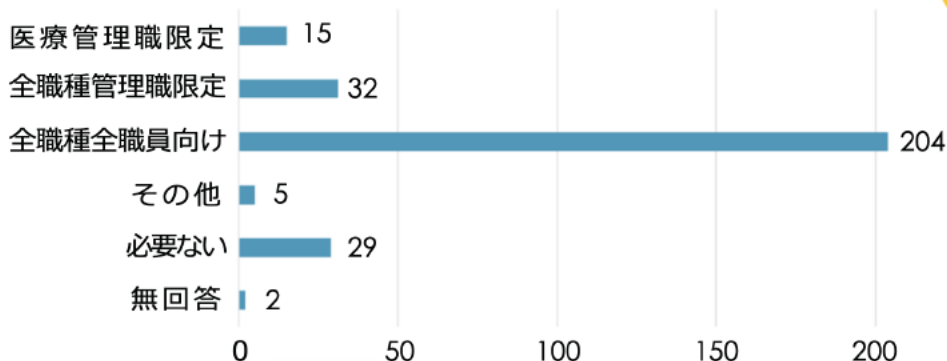


図9 希望するLGBT研修 複数回答. 数(n)



他方で、研修を不必要とする回答は少なく、全職種・全職員向けの研修が必要であるとの回答が多くありました(図9)。

### 4 要望・感想

アンケートの最後に「LGBTについて困っていること、私たち研究チームや国・行政へのご意見・ご要望等ございましたら、ご自由にご記入ください」と、自由記述欄をもうけました。一部を抜粋します。

今回のアンケートで LGBT への対応策について

病院、看護部として考えていかなければならないと気づかされたという状況です。看護協会や行政からの発信、大事ですね。

仕事で LGBT の対応が日常となる医・福祉関連は人権を守るという意味と個人情報の個の希望を尊重する視点から必須研修に近いものにしてはいかがでしょうか？

当院は患者様が  
ご高齢の方が多いため、  
あまり気にしたことはなかった。

LGBT の患者様の入院がない。  
高齢者が多いのでわからないが…。

各病院の取り組みにとどまらない啓蒙や研修の機会を求める声がある一方で、高齢者には LGBT はいないとする認識が垣間見られるなど、現状の捉え方に差があることがうかがえました。

Special thanks to, <http://icooon-mono.com>, <https://www.illustration-box.jp>, <https://www.ac-illustration.com>  
Design by 福多ゆい (Wen-Do Japan)

